

キャッチコピーは はじける我らの『書道愛』 第16回書道パフォーマンス甲子園

「書道愛」
始動！
7/23 開催
[SUN]



笑顔と両手で『愛』を表現する高校生企画員たち



学校の枠を越え活発な意見が交わされた



それぞれの想いが詰まったキャッチコピーに一票を投じた



採用されたキャッチコピーを考えた班の企画員たち。右端が田淵さん

決めるのは高校生

青柳美扇氏の大会アンバサダー就任、8大会ぶりの三島高校・川之江高校本戦W出場、長野県松本蟻ヶ崎高校の大会初3連覇など、コロナ禍にも関わらず大きな盛り上がりを見せた「第15回書道パフォーマンス

マンス甲子園」から5か月一昨年12月12日に開催された「第1回高校生企画員協議」で第16回大会のキャッチコピーが決定された。これにより、7月23日開催の本戦に向けて本格的に始動することになる。

「最終的にはみなさんが決めます。アイデアを出し合って良い企画を考えてください」。協議会の冒頭で、篠原市長はそう言って高校生たちを激励した。

書道パフォーマンス甲子園は、「高校生の祭典」と呼ばれている。それは、出場する選手だけでなく、大会に関する企画の検討から運営に至るまで、高校生たちが中心的な役割を担うからだ。

中でも「高校生企画員」は、大会のPRや選手・観客の歓迎、更には会場で行われるアトラクションまで、大会を彩るさまざまな企画を、自ら考え決定し、そして実行する。故に選手と並んで「もう一人の主役」と呼ばれる存在だ。

今年もこの企画員に、市内3校から40人もの生徒が名乗りを上げてくれた。そんな彼らに最初に与えられた使命は、今大会の「キャッチコピー」を決めることだった。

はじける我らの『書道愛』

8つの班に分かれた企画員たちは、企画員としての自分だけでなく、選手たちの気持ちにも思いを馳せながら、アイデアを出し合った。そして、プレゼンテーションと投票を経て、キャッチコピーは決定された。

この案を考えた班の田淵そらた創大さん(三島高校2年)は、「コロナ禍で、学校生活や部活動にさまざまな我慢を強いられてきた今の高校生たちに、全国の書道部員の夢の舞台である本市で思い切りはじけて欲しいという願いと、大会に関わるたくさんの人たちの『愛』を組み合わせた。高校生たちが躍動する姿や、書道に対する熱量が全国に伝わって欲しい」と、12文字に込めた思いを話した。

本紙では、今後も高校生たちの活躍と「書道愛」を紹介していく。

問い合わせ先

書道パフォーマンス甲子園
振興室 28・6037